

授業科目名	長唄実技 I ～VIII	担当形態	実技		
		開講学期	春・秋		
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

基礎的な長唄の発声の習得。

演奏曲の内容を理解し、長唄に対する知識を身につけ、日本の伝統音楽の発展に寄与する演奏家、教育現場に対応出来る指導者を育成する。

＝履修の条件と学習の方法＝

レッスン曲は個人の能力に応じて決定し、行う。

楽曲に関連する文献等を読み、内容を理解する。

出席率が3分の2以下の場合、実技試験の受験資格を失います。

事前欠席連絡がない場合が2回以上重なった場合も実技試験の受験資格を失います。

10分以上遅刻した場合、欠席とみなします。

＝授業の概要＝

発声練習の短い曲を練習したのち、該当の曲と一緒に唄い習得する。

＝授業計画＝

(1年次)

1期 演奏の基本となる読譜。基礎となる長唄の発声を習得。

2期 基礎となる曲「松の緑」を学ぶ。三味線の譜面を理解し、曲の中での発声を習得。

(2年次)

3期 西洋音楽との発声の違いについて学ぶ。実際の舞台のDVDを鑑賞し舞台での演奏方法や発声を理解する。基礎曲から次の曲への習得。

4期 習得曲を増やしてゆき、長唄を内容発声ともに理解する。

(3年次)

5期 中学校教科書に掲載されている曲を習得する。教育現場で対応出来るよう、鑑賞授業を含め、長唄を幅広く理解する。

6期 長唄の代表曲を習得する。曲の核となるソロパート及びツレ唄(全員で唄うこと)を曲の内容を理解し、習得する。

(4年次)

7期 演奏者のリーダー(タテ唄)としての演奏法を学ぶ。難曲にも挑戦し、より高度な技術を身につける。

8期 定期演奏会の為の曲を習得する。舞台上での心がまえを身につける。

＝テキスト(必携)＝

該当曲の譜面を随時購入して頂きます。

＝参考書・参考資料(必携)＝

＝成績評価の方法と評価の基準＝

学期末試験は伴奏者に三味線を弾いてもらいます。

評価は音楽的である事、内容を理解している演奏が出来ている事が高評価の基準となります。

=その他=